

●地域学校協働活動実施にあたり、重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定とその成果(令和6年度)

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	コロナ禍で学校・地域の連携や関係性希薄化やコミュニティ・スクール、地域学校協働本部の制度理解が低いこと。	学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的な推進による地域学校協働活動の計画・推進による熟議の促進。	・地域学校協働活動推進員を新たに委嘱し、地域と学校の連携強化を支援する。 ・制度や活動周知活動を行い、理解促進を図る。	・学校・地域・家庭及び市教委の連携強化を図り、研修の場づくりや情報共有を行う。	地域学校協働活動に参加する地域人材の人数	4500	人	4950	3730	(成果) ・市内3地区に加え、上土別地区・温根別地区においても地元住民による地域学校協働活動推進員を配置。 ・学校運営協議会合同研修会を開催。62名が参加し、協議会の趣旨、学校の課題、これからのCSIについて研修。 ・月1回地域コーディネーター連絡調整会議を開催。活動報告や課題等の情報共有を行った。 ・CS通信の発行、市HPでの情報発信 (課題) ・地域や学校へのCS制度の理解促進
②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	協働活動サポーターの高齢化やサポーター数が十分ないことから、一人ひとりの負担が大きい。	サポーターや学校教職員の知人などから、新規のサポーターを依頼している。青年層の参加もあるが、日中の勤務もあるため、課題の解決には至っていない。	学校への協働活動サポーターの現状・課題を伝えながら、無理のないサポーターの支援環境づくりを行う。技術的指導だけでなく、地域学校協働活動の目的でもある他者との交流などから、生徒、サポーターの相互の信頼関係構築を図る	・事後アンケートの「次年度もサポーターに協力してもらえるか」という質問の肯定的意見の増加	事後アンケートでの次年度の協力意思の数値	94	%	100	92	(成果) ・サポーターの募集について、市広報・HPの他に各地区公民館だよりなど広く周知を実施し、サポーターの増員につながる。 ・地域限定サポーターの制度をつくり、新たな人材を発掘。 ・サポーターと教職員の共通認識のための事前学習会を開催。 (課題) ・更なるサポーターの増員 ・活動しやすい環境の整備、円滑な活動のための連絡調整
③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	放課後の居場所確保の観点だけではなく、学校以外での様々な体験学習を行うことで子どもたちの自主性・社会性を育むことを課題としている。	ものづくり体験やスポーツ体験などを不定期で実施している。	年間において、更なる体験学習の充実を図るため、年間のカリキュラムを作成して実施する。	学校では体験できないものを児童に体験してもらうことができる。	年間の体験学習を行う回数	6	回	12	12	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。 ・地域の文化祭出展に向けた作品制作をはじめ、利用者の要望や意見からものづくり体験を実施した。今後は地域のさらなる協力のもとスポーツ体験を計画するなど、他の体験の開催を検討する。一層の内容の充実に向けては、人材の発掘・確保が課題となっている。